

浮魚情報（第11報）

令和2年10月1日
宮城県水産技術総合センター環境資源チーム
Tel : 0225-24-0139 Fax : 0225-97-3444

シラス分布調査結果

○調査方法

- ・9月29日に県漁業調査指導船「開洋」にて、県仙南海域の共同漁業権内においてシラス分布調査を行いました。
- ・調査方法は、魚群探知機によりシラスやイワシ類と思われる反応を調べ、魚種確認のため、中層トロール網（10分曳き）による捕獲調査と漁場環境調査を行いました。

○魚群探知機航走調査結果

航走ラインの共同第261号の南端から北端（St.1～St.4付近）でシラスと思われる良い反応が断続的に見られました（図1、図2）。

○漁場環境等

調査海域の表層水温は、21.1～21.9℃、底層付近は、20.9～21.9℃となっていました（表1）。調査漁場底層付近のDO（溶存酸素量）はいずれも夏季の水産用水基準（4.3mg/L）を上回っていました。

○中層トロール網による魚種の確認結果

図1に示す山元沖T1、T2及び亙理沖T3において中層トロール網（10分曳き）を行った結果、T1では122尾、T2では781尾、T3では545尾採取されました（全てカタクチイワシ）。漁獲物の体長はT1で20～32mm、T2で25～33mm、T3で20～37mmでした（図3）。また、T1ではシラス（仔魚）が多くを占めましたが、T2及びT3では、ほとんどが銀色に色付き始めたカエリ（幼魚）であり、シラスは少なかったです（図4）。

○その他の情報

中層トロール網で採取した漁獲物全てにシラスの商品価値を下げてしまう恐れがあるウキヅノガイやゼラチナスプランクトンであるサルパ類が多数混じっていました（図5）。

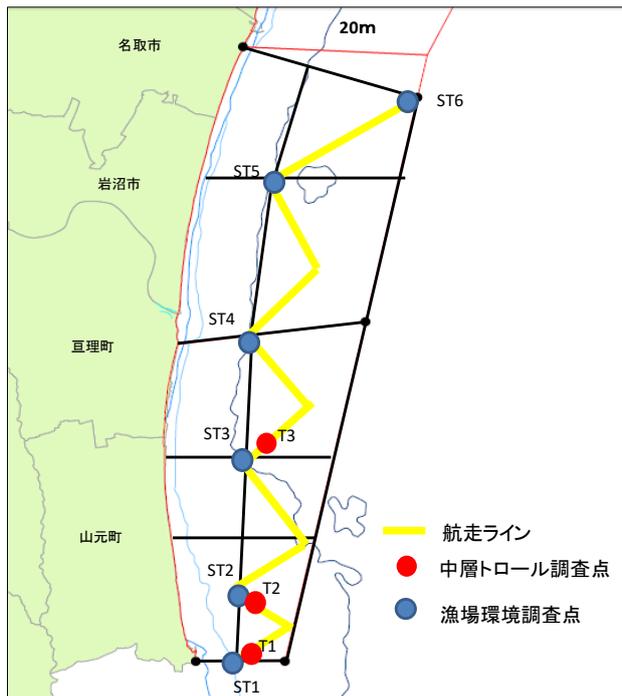


図1 航走ラインと中層トロール調査点

表1 調査漁場の環境調査結果

St	時間 水深(m)	測定層 (m)	水温 (°C)	塩分	pH	DO (mg/l)
St1	9:02 10.9	0	21.2	29.4	8.2	8.5
		5	21.7	30.2	8.2	8.1
		B-1	21.9	32.7	8.1	5.7
St2	10:00 16.2	0	21.1	29.5	8.2	8.6
		5	21.6	30.4	8.2	8.4
		10	21.8	32.1	8.2	7.7
		B-1	21.8	32.8	8.1	5.7
St3	10:54 20.4	0	21.6	29.4	8.2	8.2
		5	21.8	31.6	8.2	8.0
		10	21.7	32.0	8.2	7.5
		15	21.9	32.3	8.1	7.2
		B-1	21.0	33.2	8.0	4.7
St4	11:47 22.9	0	21.8	23.6	8.2	8.4
		5	21.5	31.6	8.2	8.0
		10	21.7	32.0	8.2	7.5
		15	21.8	32.6	8.1	6.0
		20	21.0	33.2	8.0	5.7
B-1	20.9	33.3	8.0	4.6		
St5	12:36 22.6	0	21.6	31.1	8.2	8.3
		5	21.7	31.4	8.2	8.3
		10	21.9	32.2	8.1	7.0
		15	21.7	32.8	8.1	6.2
		20	21.0	33.2	8.0	5.5
B-1	20.9	33.3	8.0	5.3		
St6	12:56 28.9	0	21.9	32.2	8.2	7.7
		5	21.6	32.3	8.2	7.8
		10	21.5	32.9	8.1	7.3
		15	21.4	33.1	8.1	7.2
		20	21.3	33.2	8.1	7.1
		25	21.3	33.2	8.1	7.1
B-1	21.2	33.2	8.1	6.8		



図2 各調査点でのシラスと思われる魚探反応



図3 中層トロールで採捕されたカタクチイワシ仔魚及び幼魚

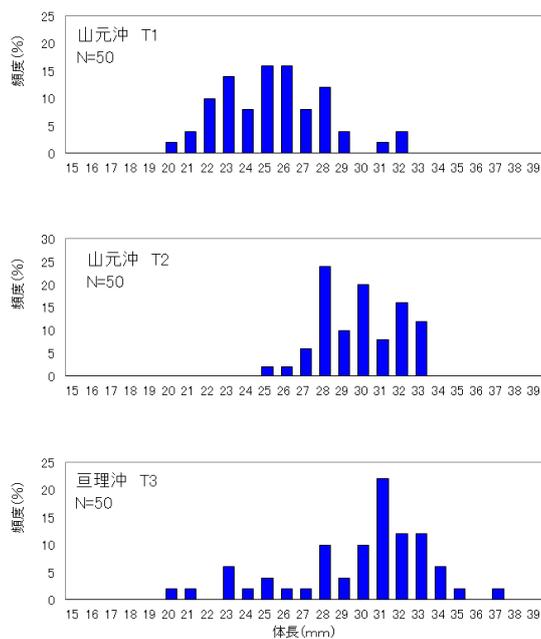


図4 中層トロールで採捕されたカタクチイワシ仔魚及び幼魚の体長組成



図5 中層トロールで混獲されたサルパ類及びウキヅノガイ